慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	2018年度『学会賞』選考結果
Sub Title	
Author	岸田, 和明(Kishida, Kazuaki)
Publisher	三田図書館・情報学会
Publication year	2018
Jtitle	Library and information science No.80 (2018.) ,p.57- 57
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00003152-00000080-0057

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018年度『学会賞』選考結果

学会賞選考委員会委員長
岸　田　和　明

三田図書館・情報学会賞は，会誌であるLibrary and Information Scienceに掲載された優れた論文に与えられる賞です。本年度は78号と79号に掲載された原著論文11編を対象に厳正な審査を行った結果，以下の論文を学会賞として選考しました。

上岡真紀子．米国におけるビブリオグラフィックインストラクションから情報リテラシーへの転換．Library and Information Science. 2017, no. 78, p. 27–53.

本論文は，米国の大学図書館界において，ビブリオグラフィックインストラクションから情報リテラシーへと教育学習支援のあり方が転換していく経緯と意義を明らかにすることを試みている。このために，多数の海外の文献を丁寧に読み解き，図書館界においてビブリオグラフィックインストラクションから情報リテラシーへと焦点が移り変わる動きを克明に描き出すことに成功している。米国において，1980年代以降，高等教育改革が要請される中で提起された情報リテラシー教育は，それ以前のビブリオグラフィックインストラクションが目指した図書館員による教育の拡大ではなかったため，当時の図書館界において戸惑いや疑義が示された。しかし，教育環境の変化の中で，情報リテラシーの意義は次第に図書館員にも認められるようになっていく。本論文では，高等教育改革を含めた当時の文献を丹念に参照しながら，この間の変化の過程が綿密に浮き彫りにされており，図書館との関わりの中での情報リテラシー教育の射程と範囲の理解を深める点で大きな貢献を果たしていると評価できる。資料に基づくこの種の研究においては，取り上げられた文献の範囲が常に問題となり，その妥当性のさらなる検証が必要とされる点は本論文でも同様であるが，これについての今後への期待も込めて，学会賞に値すると判断した。